



鳥羽市能楽保存会は、鳥羽二丁目の賀多神社に伝わる県指定有形文化財の狂言面を収納するための桐たんすきりたんすを贈り、4月12日、同神社の春まつりに併せて、境内で寄贈式が行われました。

この桐たんすは、保存状態の悪かった狂言面10点を収納するため、鳥羽市能楽保存会の会員や市民からの募金によって作られました。たんすを受け取った同神社の野村逸良宮司は「大変ありがたいことです」と話してくれました。

貴重な狂言面の保存に



障がい者のかたの働く場として利用されている松尾町の市園芸センター内にある「海の子」作業所の施設が、敷地内に新しく完成し、4月5日にお披露目会が行われました。

新しい施設には、作業室を始めバリアフリートイレや調理室、食堂などが整備されています。利用者みなさんは、明るく快適な環境で作業できることを楽しみにしていました。

「海の子」は、4月から市社会福祉協議会の運営で就労継続支援事業所としてスタートしましたが、これまで以上に市民との交流の拠点として利用されることが期待されます。

待望の作業所完成！歌で祝いました

まちの話題 1月号



4月6日、市民の森公園で第2回TOBAの杜まつりが開催され、2月に奈良県からやってきたヤギの親子の命名式やヤギへのえさやりなどが行われました。

ヤギたちの名前は、お父さんヤギが「ラッキー」、お母さんヤギが「さくら」、子ヤギの女の子が「メイ」と「もも」、男の子が「ピース」と「スマイル」に決定しました。

集まったこどもたちは、新しく決まった名前を呼びながら、ヤギたちとのふれあいを楽しんでいました。

これが本当のメイエメ(命名)式!?



3月20日、加茂中学校体育館で第31回九鬼杯争奪剣道大会が開催され、市内の小・中学生約30人を含む近隣市町の小・中学生173人が、日ごろの練習で鍛えた技を競い合いました。

小学1年生から参加している加茂剣道スポーツ少年団の西川弘晃さんと井村仁くん(いずれも加茂小6年)は、「練習は厳しいけれど、強くなりたいと思ってずっと続けてきました。成果が出せるように頑張ります。」と話してくれました。

大会は、年々参加者が増えており、会場は、所狭しとぶつかり合う選手たちの熱気に包まれていました。

少年・少女剣士が熱い戦い